

2002年12月12日

(株)カミネット

第5回XML検討分科会議事録

日時： 2002年12月6日(金) 13:30~15:00

場所： カミネット会議室

出席者： 宮崎(王子BC)、佐藤(竹尾)、丸橋(レンゴー)、遠藤(北越)
三村(JP)、吉松(KPP)、守屋(OS)、池崎(岡本)、大塚(紙販)
荒井(日本総研)、田中(カミネット)、藤縄(書記) (計12名)

代理出席者：伊藤(日本板紙共販)、鈴木(王子物流) (計2名)

欠席者： 西田(日本紙共販)、関口(日本紙共販)、柴崎(日本板紙共販)
本庄(王子物流)、大原(日本総研) (計5名)

(敬称略、順不同)

【添付資料】

資料	XMLに関するアンケート結果	(日本総研より)
資料	業界統一コード【新フォーマット案】	(カミネットより)
資料	品名マスタレイアウト	(カミネットより)
資料	取引先マスタレイアウト	(カミネットより)
資料	XML適用の参考事例：倉庫貨物事故報告書	(日本総研より)
資料	倉庫貨物事故報告書	(カミネットより)
資料	障害連絡	(カミネットより)

【議事】

日本紙共販西田委員長が欠席され、王子BC宮崎副委員長に議長を代行して頂いた。

1. XMLに関するアンケートを図式化した資料でまとめを行った。

(カミネット 田中)

- ・アンケートの内容をリアル系・ファイル交換系・その他に分類し、さらに機能面・運用面に分け、どの部分の問題なのかを図式化した資料を用い、説明があった。
- ・問題点としては、リアル系よりファイル交換系での指摘が多く、なかでも固定長での運用には限界がある、項目追加時にシステム変更が必要である等の、フォーマットに関する意見が多数寄せられた。
- ・その他の問題としては、レスポンスに関して公開側によって若干違いがあり、9.6Kから19.2Kに変えた場合でも、比例した形でレスポンスは良くならない、といった問題や、OBNとインターネットの問題等が挙げられている。

- ・いずれにせよ現行のシステムにそのままXMLを適用してもメリットはなく、コードの新たなフォーマットに適用を検討していく事も考えられる。

2. 業界コードの新フォーマットへのXML適用について

- (1) コード部会において問題点を解決する為の新フォーマット案が検討されているが、新フォーマットを検討する上でのポイントは以下ようになる。

【新フォーマットのポイント】

- メンテナンスしやすい構造
- 区分を設定し任意抽出性を向上
- 業際の国際化への対応
- 将来的に必要なと思われる児童認識への対応
- 項目増加に伴う品名KEYの任意桁数増加への対応
- 管理機能の強化

以上6点が新フォーマットのポイントとして挙げられている。新フォーマットにXMLを適用する事で、アンケートにあったような問題点を解決する事ができるかどうか検討する。

- (2) 新フォーマットへのXML適用に対して各委員より意見、質問があった。

【意見】

- ・固定長のレイアウトに新項目を盛り込む為に、XMLを使ってはどうかという意見があった。まずはXML検討分科会で業界コードへの適用を技術的な部分から検討し、技術的に問題ない事を確認しコード部会に図る。
- ・品名、取引先コードの現在の項目とは別の項目に関してXMLでデータベースを作り運用していく。その際コードの内容に新たな項目として、例えば画像等も盛り込む。
- ・特殊紙において、現在標準化がなされていない情報をXMLで作る。
- ・カタログ等の情報をXMLで開示し、情報の共有化を図る。
- ・XMLを社内システムに取り込んでいるケースは少なく、自社と外部の間で利用されるケースが多いので、やはりデータ交換の部分で活用するべきである。
- ・現行の仕組みをXMLに置き換える事は難しく、情報としてのXMLを検討するべきである。

【質問】

Q：コードへの適用とはXMLのデータベースとして各社に送信する形なのか。

A：XMLでデータベースを作り、従来の部分とは別に行う。

Q：はたしてXMLの技術がコードになじむのか。

A：フィールドは増やせるので必要な物だけ選択する事が可能である。しかし、キーは1つなので結局はコード自体を分けて運用しなくてはならない。

【結論】

- ・ EDI から離れて、新しいモデルを XML で実現化していくのも 1 つの手である。まずは様々な事例を確認して検討する事とする。

3 . 事故報告書に XML を適用した例について (日本総研 荒井氏)

XML を利用し、事故報告書を HP 上などで管理するシステムの提案があった。

【仕様】

- ・ 各社のフォーマットのデータを様々な経路から受け取り、共有 DB へ格納し、各社のフォーマットに応じた形でデータを送信する形式とし、相手先毎に使用する項目を決めておき、必要な項目だけを取り出してデータの送受信を行う。但し、事前に事故報告書の項目の洗い出しを行い、仕様項目を取り決める必要がある。
- ・ デジカメを利用した画像貼り付けが可能となる。
- ・ 費用としては 300 万 ~ 500 万円で行える。
- ・ カミネットのシステムの範囲外である為、業務に影響を与えることなく運用が可能である。

【結論】

- ・ 営業的な部分も絡んでくるので、できれば影響の少ない障害 FAX で行いたい。
- ・ 次回分科会で障害 FAX を XML 化したケースを日本総研より提案する。

4 . その他

- ・ 北米の主要メーカーが主催する EC サイトの ForestExpress がメーカーと試験的に XML を利用しデータ交換を行っている。世界の紙パルプ業界が XML を標準化していくなかで、日本は孤立するのではないかという危惧もあり、日本の仕様と PapiNet の推進する XML 標準に互換性をもたせるような事も必要となる。
- ・ XML メッセージ標準化のワーキンググループの開催時期、メンバーについては、次回分科会においてカミネットより案を提出する事とする。
- ・ 1 月を休会とし、次回 XML 検討分科会は 2 月とする事で各委員の了承を得た。

【次回日程】

日時： 2003 年 2 月 13 日 (木) 13:30 ~ 15:00

場所： カミネット会議室

以上